いつだったのか、忘れるくらい君が好きで。

サークルO.L.

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
いつだったのか、忘れるくらい君が好きで。

【Ｎコード】
Ｎ６２５６Ｚ

【作者名】
サークルＯ．Ｌ．

【あらすじ】
タイトルが本編で、内容は詩である。

君を好きになったのはいつなのか？（前書き）

タイトルが本題で、お送りするのは尖角です。

君を好きになったのはいつなのか？

悲しいかな、今日も俺は独りに耐えて生きている。

苦しいかな、友達も彼女もいないただ一人の孤独の生活は。

嬉しいかな、誰にも知らずに死ねるたった一つの喜びは。

俺は涙を流さない。

涙というものはとっくの昔に枯れてしまったのだから。

大好きなんて言葉にはとっくに飽きてしまったのだ。

伝えることができない、たった一人の俺にのしかかる重圧。

そこにあるのは空虚な生活。

悲しみも、怒りも、喜びも、楽しみも、愛も、何も、そこにはない。

俺が君から奪った幸せは、俺から君というものを奪った。

それは、昨日の話だったのか？

それとも、数年前の過去の話なのか？

それとも、俺が生まれるずっと前の話だったのか？

俺はたった一人の孤独な悪魔。

俺に涙なんてものはいらない。

その涙を映すものは無く、誰も拭ってなどくれないのだから。

自分で拭うことなんてできないよ。

「君を抱きたい」というために腕を切り落としたから。

君に近づくことなんてできないよ。

その欲望を鎮めるために足を切り落としたのだから。

君の鼓動を知ることはできないよ。

君にしたように、僕の胸にも穴をあけたのだから。

大好きだったんだ。　この世の中で最も。

だけど、俺は罪深き罪人。

君に愛の生き死にを教えることなどできないのだ。

所詮、俺は生けとし死せるもの。

何もそこにはありはしない。

ただ、そこにあるのはたった一人の虚しき存在。

俺はふと、記憶の奥底を探ってみる。

夢か現か、幻か？

涙の意味は何なのか？

苦しいとは何なのか？

君というものは何なのか？

嬉しさは所々で俺に話しかける。

「君は今、幸せですか？」

「いいや、別に？」　俺は答える。

寂しさは俺に話を振ろうとする。

「君は一人でもいいのかい？」

「ああ、寂しくはないよ、、、」

悲しさは俺に言葉を投げかける。

「君は一体、何がしたい？」

「それは、ただただ死にたいだけだ・・・」

君は俺に言うのである。

「あなたは良い人――――」

じゃあ、なぜこんなことになるのか？

俺には意味が分からない。

愛が愛で無くなった時、それは一体何になると思う？

それはゾンビさ、　寂しさゆえの一人の人生。

そうだ、　俺は無意味に生きるだけ。

だけど、俺の記憶にはそれは残っていない。

あたしは、気付いていたのかもしれない。

あなたが、別れを用意するより先に、あたし達の関係が終わりに近づいていたことに。

あなたの傍にいたのに、あなたは変わらないのに、あたしは変わってしまうもどかしさ。

寂しさがとめどなく溢れ出して、あたしは過去を振り返って見る。

いくらでも戻れるチャンスはあったはずなのに、あたしはそれに見向きもしないで突き進んだ。

だから、あたし達の関係は終わりを向けえるんだ、、、きっと。

ありがとう、　ただそれだけは言わせてよ。

ちょっとだけの恋人関係だったけど、楽しかったよ。

じゃあ、一体どこにあるのだろうか？

気持ちを静めてあなたの前に立ってみる。

すると、どうなると思う？

さっきまではトクトク流れていた私の血も、

いつの間にかドックンドックンに変わっているのである。

それはまるで映画の音響みたく大きな音で、

３Ｄのように私から突き出てきそうで――――。

あなたのことが好きなんだ。

この血よりも真っ赤な愛が、それを証明しようとしている。

だから、一歩だけでも君の下に近づいてみるよ。

それが、私にとっての精一杯の努力なんだから。

俺はそう思い、君の瞳を見つめてみる。

あなたに会いたい――――。

それ以外の気持ちが、必要なのだろうか？

私にはあなたしかいない。

だから、私はあなたを求めるんだ。

あなたが、例え私を好きでなくても、

私が愛せるのならばそれで構わない。

あなたの意見なんて聞いてないんだよ？

あぁ、血だらけの人形たちよ！

私のために、お歌を唄いなさい。

あぁ、血だらけのあなたたちよ！

私のために、骨と血肉になるのです。

あぁ、素晴らしき子供たちよ！

私のために、死して無くなれ何もかも。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6256z/

いつだったのか、忘れるくらい君が好きで。

2011年12月20日23時46分発行